

## 第6章 第2節 研究活動と研究環境

能な限り外部機関の研究資金の導入や研究助成を得るように勧められているが、その成果が外部に向けてアピールできるものであるためにも必要なことであり、実際にいくつかの研究テーマが外部の助成を得ていることは大いに評価できる。

**【課題・方策】** 総合研究所が本学における研究支援機関として果たしている役割は大きい。大衆化した大学では高度な研究に裏打ちされた教育への志向は益々増大しつつある。研究の活性化と質の向上を促し、それを教育の向上につなげていくためには、教員同士が共通の研究テーマのもとに切磋琢磨する共同研究は大いに意義あるものである。共同研究は、個々の研究者の知の集結であり、各自の研究の幅を広げ、大いに刺激を与え合う機会となるはずであり、今後とも積極的な共同研究の推進が計られなければならない。予算によって研究所の活動が停滞することや、十分な成果が得られないことがないようにする一方、研究者同士の交流をいっそう深め、より実り多い研究成果が期待できるような運用が望まれる。具体的には、共同研究の検討は総合研究所委員会にて行われるが、より公開された形で共同研究テーマを募集し採択していく仕組みを整える必要がある。

## 2 競争的な研究環境創出のための措置

### 1) 研究助成金の申請と採択状況

(C群: 科学研究費補助金及び研究助成財団などへの研究助成金の申請とその採択の状況)

**【現状の説明】** 本学では毎年科学研究費補助金の申請を複数の教員が行い、採択されている。2005年度の新規申請は17件に対し、採択は1件、前年度からの継続交付は3件あるが、申請・採択ともに多いとは言えない。これは決して望ましい状況ではないが、学内論叢への投稿も比較的安定しており、この申請・採択件数の低さが直ちに本学の研究活動の停滞を意味するものではない。科学研究費補助金に関しては、申請作業が繁雑であるにも関わらず採択される可能性が極めて低いという認識が学内にあるようであり、このことが申請を控えさせる要因の一つにもなっているとも考えられる。

一方、科学研究費補助金以外に学外の助成機関より助成を得て行われた研究は、本学で把握している範囲では総合研究所の組織として行っているいくつかの研究活動に限られている。その他本学の教員による学外の研究助成を得て行われる研究プログラムについては一般に低調である。(p. 221)

**【点検・評価】** 科学研究費補助金への申請ならびにその採択状況や、外部民間機関等による研究助成への応募状況などを見るかぎり、学外の研究資金を得て行われる研究活動は概して低調であると言わざるを得ない。その要因として考えられることは、本学の個人研究費等の研究助成が金額面で妥当な水準に達していること、その用途についても使用規程はあるものの厳しい制限を設けておらず、教員に比較的自由的な裁量が与えられているという恵

まれた状況にあること、加えて従来教員に対して積極的に学外の研究助成に応募するよう組織的に働きかけることを行っておらず、そのため煩雑な申請書類の作成を初め、予算の執行、報告書の作成、決算報告書作成など、すべてを教員個人で行わなければならないため、申請作業自体が敬遠されることなどが考えられる。

**【課題・方策】** 学内論叢への投稿や、学会への参加・発表などを含め、教員の研究活動を外部に向けて開拓し、その成果を問うためにも外部の研究資金を獲得する努力をすべきであろう。教員の自主性に期待して外部の研究資金を獲得するための努力が図られることが望ましいが、それだけでは外部資金獲得の努力が十分になされない可能性もある。その観点からは、総合研究所における共同研究の外部研究助成の申請は事務部門が中心となって行っており、採択件数も増えつつあることから考えて、申請の補助のための専門的部門を設けることが課題となってくる。現在の研究所事務室の強化を進めつつ、単に総合研究所の共同研究のみならず大学全体の研究全般にわたる支援的な組織と改編することも視野に入れつつ、外部の研究助成金への応募を促すための施策を検討していかねばならない。

### 3 研究上の成果の公表、発信・受信等

#### 1) 研究論文・研究成果の公表を支援する措置

(C群: 研究論文・研究成果の公表を支援する措置の適切性)

**【現状の説明】** 本学では、以下のような刊行物を定期発刊して教員が研究成果を発表する機会を提供している。

- ・聖学院大学論叢（年2回）
- ・総合研究所紀要（年3回）
- ・総合研究所ニューズレター（年5回）
- ・聖学院大学研究叢書（ヴェリタス叢書）
- ・キリスト教と諸学（年1回）
- ・緑信叢書（年1回）

このほか、共同研究プロジェクトへの助成、学術講演会・シンポジウム等の開催なども行われ、広く研究成果の公表を支援している。また、1991年に設立された聖学院大学出版会では、大学の教育・研究活動を学外に拡げ、その学術・文化的使命を果たすことを目的としており、主として学術図書の出版を中心とする活動が行われている。

さらに2005年度からはWEBサイトを利用した「聖学院大学総合研究所 ON THE WEB」をスタートさせ、聖学院大学としてインターネット上でリアルタイムに教育、政治、社会、経済、国際等の問題を積極的に発信することが可能となっている。